

## Ⅱ 事業の概要

### 法人

(理事会機能の充実)

毎年、厳しく変化する私立学校を取り巻く環境に適切に対応し、様々な課題に対して主体的、機動的に対応していくため以下の課題を設定し、検討並びに実施することを計画した。

- ① ガバナンスについて
- ② 実効性のある中長期計画の策定
- ③ 外部評価に基づく改善のための取り組み

#### 1) ガバナンスについて

本学園のガバナンスの在り方を探求するため役員、評議員及び事務局員を対象に次の研修会を実施した。

○2008年6月27日(金)立教学院大学本部調査役、東京大学名誉教授の寺崎昌男氏を招き、テーマを「建学の理念の発見と共有」とし研修会を実施した。寺崎氏は建学の精神を共有するためにも自校教育が有効であることなどを解説した。

#### 2) 実効性のある中長期計画の策定

木瀬保育園の移管業務や120周年記念式典の準備に追われ、2008年度版の中期計画を作成することができなかった。

#### 3) 外部評価に基づく改善のための取り組み

2006年度に幼稚園と中学・高校では、コンサルタント会社の指導を受けて外部評価を実施し、その評価内容に基づいて2007年度から改善に着手、2008年度は本格的に取り組んだ。

幼稚園では在園児を対象に英会話、絵画造形、サッカー、体操の各教室の充実を図って実施した。その結果、これらの教室が高い評価を受け2009年度の園児確保に大きく貢献した。

中学・高校では、外部評価プロジェクトチームを立ち上げて、「授業力向上」、「学力向上の仕組みづくり」、「家庭学習・課外学習」を骨子とする基本方針を提示したほか、コンサルタント会社の助言を受け入れて、英語科特進コース教科担当者に対する進路指導教授法の研修を実施し、一定の成果を上げることができた。

(学園創立120周年記念事業)

次の共愛学園創立120周年記念事業に係る、2008年度中の進捗状況は下記のとおりである。

- ① 幼稚園の駒形キャンパスへの移転
- ② 幼稚園、中学・高校、大学の共有施設の建設
- ③ 学園100年史（下巻）の発刊
- ④ 市立木瀬保育所の移管による保育園の設置
- ⑤ 共愛学園創立120周年記念式典及び祝賀会
- ⑥ 創立120周年記念事業資金計画と一般募金

1) 幼稚園の駒形キャンパスへの移転の件

多くの関係者からの協力を得て、2006年度に旧岩神キャンパスより移転開園することができた。

2) 幼稚園、中学・高校、大学の共用施設建設の件

共用施設として、学寮西側農地1,804㎡(547坪)を取得し、ここにテニスコート(一面)を建設した。

3) 学園100年史(下巻)の発刊の件

当初の2008年10月発刊予定を半年延長し、2009年3月までに発刊することに変更した。歴代校長の時代区分による担当者の原稿も書き上がりゲラ刷りを校正中であるが、さらに発刊は次年度6月以降になる見通しである。

4) 市立木瀬保育所の移管による保育園設置の件

移管決定後、在園児保護者、前橋市、共愛学園による三者協議会において外部の意見を聴取し、学内的には移管準備委員会のほか部会(保育、人事、施設)を設けて準備を進め、無事に2009年4月に開園予定である。

開園当初のスタッフは次のとおりである。

- ・ 園 長 : 1名
- ・ 主任保育士 : 1名
- ・ 専任保育士 : 4名
- ・ 常勤的非常勤保育士 : 9名
- ・ パート保育士 : 1名
- ・ 専任栄養士 : 1名
- ・ 嘱託調理士 : 2名
- ・ 嘱託用務職員 : 1名

5) 共愛学園創立120周年記念式典及び祝賀会

学園創立120周年記念行事を2008年10月18日(土)に催した。

式典を中学・高等学校大礼拝堂において、祝賀会を市内のホテルにて行った。

式典への参加者は約1,200名で、式典・祝賀会いずれも盛会のうちに終了することができた。

収支概要は次のとおりである。

・収入 (単位:円)

	予算額	決算額	記 事
祝い金	5,000,000	3,194,000	
学園負担	12,020,000	14,764,854	
合 計	17,020,000	17,958,854	

・支 出 (単位:円)

	予算額	決算額	記 事
祝賀会費用	4,400,000	2,593,150	5,000円×550名 看板・花代含
記念品	2,500,000	2,707,950	風呂敷1,200枚(200枚追加)
案内状等印刷費	900,000	1,091,309	印刷費及び案内発送作業代含
郵送料	2,340,000	2,210,250	案内及び返信
昼食代	200,000	370,000	1,000円×370個、飲物含
永年勤続記念品	350,000	1,100,000	50,000円×16名(勤続30年以上) 50,000円×6名(特別功労)
大型バス	630,000	546,000	式典会場ー祝賀会 会場移送8台
上毛新聞広告	4,200,000	4,200,000	1,050,000円×4回
諸雑費	1,500,000	3,140,195	
合 計	17,020,000	17,958,854	

6) 創立120周年記念事業資金計画と一般募金の件

この記念事業の年度当初計画額と補正額は次表のとおりである。

・収入の部 (単位:千円)

	年度当初額	補 正 額	記 事
外郭団体支援	212,100	202,100	学園外郭5団体
補助金額	37,878	37,878	国、群馬県、前橋市
一般募金	60,000	62,678	
資産売却	114,028	114,028	岩神キャンパス売却
計	424,006	416,684	

・支出の部

	年度当初額	補正額	記 事
幼稚園移転	301,968	301,968	土地取得、新園舎建設、旧園舎解体等
共用施設建設	55,648	55,648	土地取得、テニスコート建設
100年史発刊	5,000	5,000	1,500部
保育園設置	50,000	50,000	園舎増築、既施設等の修繕
その他	11,390	4,068	予備費
計	424,006	416,684	

一般募金は追加募金額6,000万円を年度内に達成したため、2008年度末をもって終了した。  
 支出の幼稚園移転と共同施設建設は確定額。100年史発刊と木瀬保育園工事は2009年度に執行することになるが、ほぼ計上してある補正額程度で納まる見込み。補正額を超える場合にはその他（予備費）の範囲内で調整する。

(土地取得に関する件)

幼稚園南側位置に売地が出たことから、幼稚園職員駐車場用地として302㎡(91.5坪)を取得した。

# 大 学

## (入学の状況)

特待生制度や奨学金の充実、広報活動、募集活動の積極的な展開などにより、定員以上の学生を確保することができた。

・2008年度 コース別入学概況（入学定員 200名、編入学定員 20名） (名)

	国際社会専攻				地域児童 教育専攻	計
	英 語	国 際	情報経営	人間文化		
応募者	161 (9)	63 (0)	116 (9)	61 (1)	56 (0)	457 (19)
合格者	123 (8)	46 (0)	78 (6)	52 (1)	39 (0)	338 (15)
入学者	99 (8)	29 (0)	56 (6)	34 (1)	18 (0)	236 (15)

( ) 内数値は編入学の内数

## (専任教員人事)

2007年度末に教授2名（心理学・メディア）、講師1名（情報）が退任し、その後任として2名の専任教員（心理学・情報）を採用した。また、学長の任期満了による改選により、新学長として平田郁美教授が着任した。

## (専任職員人事)

情報教育の充実を図るため年度途中（2008年1月）より、派遣職員から専任職員（1名）に切り替えた。

## (ブランド化戦略会議の立上げ)

10年先を見据えて大学の在り方を探求するための「ブランド化戦略会議」を立上げ、広報活動を中心としたサバイバル戦略について、あらゆる面からの可能性について検討を開始した。

この会議の人選にあたっては、教員・職員の若手を対象とした立候補制を採用し、ここに学長等の役職員が加わって16名により組織した。

## (大学基準協会への第二回認証評価申請)

前回申請の認定期間が2010年末で終了することから、大学基準協会へ認証評価再認定のための申請を行った。

第1章の理念・目的から第15章の情報公開まで膨大な作業量となったが、前年度分の作業を含めてほぼ1年がかりで担当者がそれぞれの関係箇所を執筆し、これを編さんして1月上旬に同協会へ提出した。

2009年度に入り、秋の实地調査などを経て12月に結果が発表される予定である。

(地域共生センターの本格的稼働)

地域貢献をより推進するために2007年度に地域共生センターを立ち上げ、2008年度から本格的に稼働した。主な活動実績は次のとおり。

【主催・共催事業】

- ・「きょうあい子育てひろば」を企画立案し、3シリーズを実施。
- ・沼田市男女共同参画セミナーのコーディネーター及び講師担当
- ・川田龍平氏特別講義の実施
- ・化粧療法の理論と実践公開授業（本学「共生の教育」授業）共催
- ・生涯学習講座 6講座  
生涯学習講座群：「旅に役立つ英会話」、「やさしい陶芸」、「託児ボランティア養成講座」、「ストレッチ教室」、「木瀬地域の歴史を学ぶ」、「パソコンはじめて講座」

(借用地の一部取得)

前橋市からの借用地（グラウンド）一部1,165㎡（353坪）を3,064万円で取得した。

これにより前橋市からの借用地は残り9,950㎡（3,015坪）となり、現在の鑑定価格で試算すると2億6169万円となる。

また、第二学生駐車場の借地一部地権者から返還要請の話しが持ち上がり、交渉した結果、借地面積3,382㎡（1,023坪）のうちから、その一部591㎡（178.95坪）を取得した。

(施設・設備等の充実)

① PC自習室の改修とパソコンの取得

学生への利便性向上を図るためパソコンの自習スペースを拡大した。PC自習室の間仕切りを取り払い、ここへ新たにパソコン10台を取得し追加配置した。

② 図書館システムの更新

図書館の検索システムが老朽化し、PCの立ち上がりが遅くなるなど支障が生じてきたことから、このシステムを入れ替えた。

③ 就職センター間仕切り

資料等の増加により、同センターのスペースが狭隘となったことから、学生ホール側に間仕切りを設け、ここに資料を常備するなどして学生へのサービスを向上させた。

(進路の状況)

- ・2008年度卒業生の進路状況は次のとおりである。

(名)

就 職 者	180
就職未定者	4
そ の 他	38
進 学 者	1
計	223

就職率 97.8% (180/184)

- ・就職者の業種別進路は次のとおり。

(名)

業 種	人 数	業 種	人 数
サービス業	57	自 営 業	0
出版・印刷業	4	商 社	4
官 公 庁	2	情報通信業	19
教 職 員	28	製 造 業	13
金 融 業	12	流通・小売業	35
建 設 業	6	計	180

## 高 校

(人事について)

2008年度は、専任講師2名の退職により専任講師2名（うち1名は、非常勤講師からの任用替え）を採用したほか、非常勤講師4名の退職に対して非常勤講師3名の採用を行った。

この結果、教職員の構成は下表のとおりになるが、教諭以下は変わらず、非常勤講師が1名の減となった。

・教 員 (名)

年度	専任教諭	専任講師	助教諭	左の計	非常勤講師
2006	46	11	1	58	24
2007	46	12	1	59	22
<b>2008</b>	<b>46</b>	<b>12</b>	<b>1</b>	<b>59</b>	<b>21</b>

・職 員 (名)

年度	専任職員	パート職員	派遣職員	計
2006	6	1	3	10
2007	5	1	4	10
<b>2008</b>	<b>5</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	<b>10</b>

(入学の状況)

教職員が分担して県内及び近県の中学校の訪問や、入試広報室を中心とした進学塾訪問を行ったほか、新聞広告等の広報活動を行ったが、2007年度よりも全体の応募者が約5%の減、入学者数も約8%減となった。

・2008年度 入学概況 (カッコ内は共愛中学出身者の内訳) (名)

	英語科		普通科	計
	特進コース	進学コース		
定 員	90 名		332 名	422 名
応募者	226 (9)	260 (17)	608 (39)	1,094 (65)
合格者	162 (9)	229 (17)	575 (39)	966 (65)
入学者	31 (9)	95 (17)	201 (39)	327 (65)

※ 普通科は文科・総合・理数の3コース



### (特待生制度の充実)

すべての入試に特待生制度が適用されることを周知し、学業優秀者・スポーツ等優秀者の両面から意欲のある生徒を確保し、より活力のある学校づくりを行った。

内容は次のとおり。

- ・ 特待生 S — 入学時の入学金・施設費及び毎月の授業料・施設維持費を全額免除
- ・ 特待生 A — 入学時の入学金と毎月の授業料を全額免除
- ・ 特待生 B — 入学時の入学金と毎月の授業料を半額免除。

これにより、特待生の入学実績は下記のとおりとなった。(名)

	特待 S		特待 A		特待 B		計
	学 業	ス ポー ツ 等	学 業	ス ポー ツ 等	学 業	ス ポー ツ 等	
2006 年度	0	0	6	11	10	5	32
2007 年度	0	0	10	11	8	6	35
<b>2008 年度</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>6</b>	<b>6</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>31</b>

### (進路の状況)

4年制大学への進学志向は強く、4年制大学進学者が57%、短大進学者14%、専門学校進学者16%となっている。また、4年制大学の進学者の内72%が県外へ、分野別では語学・国際関係に21%、法学・経済・社会学関係に8%、同じく人文・歴史・心理関係に8%の生徒が進学している。

(名)

区 分	人 数	区 分	人 数
大 学	170	留 学 予 定	8
短 大	41	就 職	8
専 門 学 校	47	浪 人 ・ そ の 他	22
		計	296

### (施設・設備の充実)

#### ① エレベータの設置

車いすを利用する生徒が入学したことを契機に、校内バリアフリー化に向けた対策の一つとして、エレベータ1基を増設した。このことにより、教室はもとより広く地域社会へも開放されている礼拝堂（講堂）への出入りが容易となった。

#### ② インターロッキングの補修

5年の年次計画の2年目として、不陸の著しい中庭通路のインターロッキングの補修工事を行った。

(普通科の改編)

地域社会や生徒・保護者のニーズに応えるほか、学校の生き残りを図るため、現在の普通科の3つのコース（文科・総合・理数）を英語科と同じく2つのコース（特進・進学）に改編するため、カリキュラムの全面改定を行った。新カリキュラムは2010年度新入生より適用される。

## 中 学

### (入学の状況)

小学校訪問や新聞広告等の広報活動を行ったが、前年度の応募者数が多かったこともあり、応募者の延べ人数が約34%の減、入学者が約8%の減となった。

### 入学概況（入学定員 90 名）

(名)

	第1回入試		第2回	第3回	計
	推薦	一般	一般	一般	
応募者	46	45	24	8	123
合格者	45	32	17	7	101
入学者	45	25	17	7	94

### (人事について)

2008年度は、専任講師1名の退職に伴い、1名の専任講師の採用を行った。

(名)

年度	専任教諭	専任講師	助教諭	左の計	非常勤講師
2006	6	7	1	14	5
2007	9	4	1	14	6
<b>2008</b>	<b>9</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>14</b>	<b>6</b>

### (進路の状況)

卒業生数84名中、共愛学園高校に内部進学した生徒は72名、他校に進学した生徒は12名であった。他校に進学した生徒の中には、他校を受験希望した者や共愛高校へ推薦する基準に達していない者もいる。

(名)

年 度	卒業生数	内部進学者数	外部進学者数						計
			県内公立	県内私立	県外公立	県外私立	海外留学	その他	
2006	77	62	9	3	0	2	0	1	15
2007	73	65	4	3	1	0	0	0	8
<b>2008</b>	<b>84</b>	<b>72</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>12</b>

## 幼稚園

### (園児募集)

園児募集を強化するため6月～7月の幼稚園開放ほかHPの充実を図った。  
移転して3回目の園児募集であった。入園児及び園児数は次のとおりである。

(名)

	入園児	在園児
3歳児	12	12
4歳児	3	21
5歳児	1	26
	16	59

### (外部評価に基づく課外活動)

外部評価結果に基づいて課外活動を実施した。申込者等の概要は次のとおりである。

	英会話クラブ	絵画造形クラブ	サッカー教室	体操教室
申込者数	55名	16名	35名	77名
講師	本大学講師	本大学准教授	本大学学生	本大学学生
開催日数	12日	5日	12日	16日

※ 体操教室は2008年度より開始

### (財政の安定)

賛助会からの3ヶ年支援も2008年度をもって終了し、2009年度以降から予測される厳しい財政問題について検討を行った。その結果、職員との合意を得て次の施策を2009年度より実行することが確認された。

- ・ 額が縮小することがあっても、賛助会からの支援を継続して依頼する。
- ・ 5%ダウンした新給与表を適用するほか、一律に支給されていた研修手当を廃止する。
- ・ 木瀬保育園の常勤的非常勤講師に倣って、新たに常勤講師制度を設け適宜導入する。

### (施設・設備の充実)

#### ① 庇テントの設置

園舎の軒が短く、少し強い雨や横なぐりの雨が降ると廊下に吹き込むため、中庭からの出入り口3ヶ所に庇テントを設置した。

#### ② 監視カメラの設置

園児のセキュリティーを確保するため監視カメラを設置した。